

～ は じ め に ～

当初ヨーロッパ視察団の視察を5月下旬と議決していたところ、4月に入り世界的な新型インフルエンザの感染状況の中、本市においては、渡航し帰国した川崎市民が感染していたことが判明したことや、「川崎市新型インフルエンザ対策本部」が設置されたこと等を鑑み延期することとした。

その後、インフルエンザ感染の沈静化等の状況変化により、視察期間を平成21年11月8日から15日までの8日間とし、当初の予定どおりの内容で、オランダのアムステルダム市及びロッテルダム市、フランスのパリ市、イギリスのロンドン市等を訪問した。

視察調査目的は、①地球温暖化防止、②少子化対策（次世代育成の支援）、③高齢者・障害者に対する福祉、④地方分権型社会における地方自治制度・議会、⑤救急医療、⑥港湾運営、等の先進的な取組策の視察調査で、合計8回の会議・打合せを開催し、具体的な視察先・内容等の検討・協議を行った。

その際、最初に、視察事前研修として、日本貿易振興機構（ジェトロ）海外調査部の秋山士郎欧州課課長補佐並びに同課和泉浩之氏をお招きし、「欧州の社会及び経済情勢等」について勉強会を行った。

続いて、ロッテルダム港湾公団の木島信比古日本代表にもおいでいただき、「ロッテルダム港の概要と特徴等」について集中講義を受けた。

両事前研修とも、現地を良く熟知され、実際に滞在していた方からの生きた貴重な経験・情報が含まれた内容であったため、詳細かつ有意義なものとなり、実際の視察においての大きな礎となった。

さらには、幸いにも「東京港とロッテルダム港」の姉妹港に関する行事に出席のため来日しておられた、ロッテルダム港湾公団のハンス・スミス総裁に、坂本視察団長が直接お会いし、京浜港（川崎港、横浜港、東京港）の国際競争力強化やポートセールス等についての情報交換ができたほか、後日現地での精緻にわたるご配慮をいただくなど大変お世話になった。

以下、主な視察地についての概要を記述するが、最初の視察国のオランダでは、地球規模の問題で喫緊の課題ともなっている『地球温暖化防止に向けた取組み』として、ロッテルダム市の、廃棄物エネルギー施設の「AVR社」を視察した。川崎市では、ミックスペーパーの分別収集事業、ゴミの資源化处理、3R活動の推進などを実施しているが、環境先進国であるオランダの廃棄物処理の実態、とりわけ、廃棄物の資源化やエネルギーへの転換等の先端技術を視察することができた。

次の視察国のイギリスでは、『科学研究都市における都市開発の取組み』として、ケンブリッジ市の「ケンブリッジ・サイエンスパーク」を訪問した。川崎市にも、「かながわサイエンスパーク」や「新川崎創造のもり」があり、企業を支援するシステムは導入されているが、ケンブリッジ・サイエンスパークでは、ベンチャー企業の支援策等について様々な形態を学び取ることができた。

また、『地方分権型社会における地方自治制度・議会』として、ロンドン特別区の「ロンドン・ランベス区」を視察した。現政権での新たな制度検討の一つとして、イギリスの地方自治制度について直に知り得ることができたことは、大変有意義であった。

最後の視察国であるフランスでは、『救急医療の取組み』として、パリ市の「SAMU（救急医療サービス）」を訪問した。SAMUにおいては、日本の救急体制とは、大きく相違しており、医師自身が、救急電話の受付時に、治療方法の指示、指令、救急出動までを行っている医師主体の救急体制となっていた。日本においては、医師不足の根本的な問題に取り組むことが大前提ではあるが、コールセンターや救急車に医師を直接派遣することを可能とすることにより、患者の生存率、治療のスピードが飛躍的に改善されると思われた。

以上、海外視察の所期の目的を果たすことができたが、視察地の詳細な報告は、別途、各担当者がまとめたので、ご高覧いただきたい。

最後に本視察にあたり、様々な場面でご協力をいただいた関係者の方々に、この場をお借りして深く感謝申し上げたい。

視察団団 長 坂本 茂
 副団長 玉井 信重



ロッテルダム港湾公団ハンス・スミス
総裁と坂本団長
【21.5.25 都庁会議室にて】